

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスみなみな		
○保護者評価実施期間	2026年 1月26日		2026年 2月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48 (44家族)	(回答者数) 30家族
○従業者評価実施期間	2026年 1月26日		2026年 2月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高いアセスメントと個別支援計画の連動 専門職が標準化された検査（フォーマルアセスメント）や行動観察を用い、客観的エビデンスに基づいた個別支援計画を作成している点。 保護者のニーズを的確に分析し、5領域を意識した具体的な目標設定がなされている。	構造化への配慮と合理的配慮 医療的ケア児の受入れに合わせたスロープ設置や、パーテーションによる個別スペースの確保など、限られた環境下で最大の合理的配慮を行っている。	環境の構造化の更なる深化 「見える化（視覚的支援）」を徹底し、子どもが自ら見通しを持って活動できる物理的構造化（スケジュール掲示やワークシステムの確立）をより強化する。
2	保護者との強固な信頼関係と柔軟なコミュニケーション LINEやメール、電話を駆使し、日々の活動内容や子どもの様子を密に共有している点。 「共感的支援」「丁寧な説明」において保護者から極めて高い評価（満足度）を得ている。	支援プログラムの多様性と公表 集団活動と個別療育を適切に組み合わせ、プログラムが固定化しないよう週単位で工夫し、ホームページ等で透明性を高めている。	研修機会の多角化と質的向上 勤務形態に合わせたオンデマンド研修（録画受講）の整備を加速させ、最新のエビデンスに基づく療育技術（ABA、TEACCH等）の研鑽を積む。
3	質の高い支援の提供とチームアプローチ 毎日欠かさず実施する開始前・翌日のミーティングにより、全職員が支援目標と役割を共有し、チームで一貫した対応を行っている点。	ICTを活用した情報共有の徹底 「GAMBA日報」や連絡用アプリを活用し、職員間の振り返りと保護者への迅速なフィードバックを両立させている。	

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面での物理的制約（換気・安全面） 窓がない構造による換気への懸念や、一部の危険箇所に対する安全管理。	施設構造上の物理的限界 建物構造上、自然換気が難しく、安全面と衛生管理の両立に細心の注意を要する状況にある。	ハード・ソフト両面での安全対策強化 安全計画の策定を保護者に再周知するとともに、サーキュレーターやセンサー等の活用による環境モニタリングを行い、安全・清潔な空間維持を徹底する。
2	地域交流・集団イベントの不足 児童館や放課後児童クラブ、地域住民との交流機会が現状では設けられていない点。	開所からの期間とリソースの集中 質の高い個別療育の確立に注力してきたため、地域連携や大規模な集団イベントまで手が回っていない点。	地域連携・交流プログラムの段階的導入 まずは地域機関との情報共有から始め、段階的にボランティアの受入れや、近隣施設との合同行事を計画する。
3	保護者間交流の場の未整備 保護者会やきょうだいの支援の機会が提供できていない点。	多様な勤務形態による集合研修の難しさ 職員の出退勤時間にばらつきがあり、全員揃っての対面研修や意見交換の時間を確保しにくい。	オンライン等を活用した保護者・職員交流の促進 集合が難しい場合でも、SNSやオンライン会議ツールを活用した「オンライン保護者会」や「録画型研修」を導入し、コミュニティ形成とスキルアップを図る。